

第2章 熊本市の維持・向上すべき歴史的風致

1. 歴史的風致の分布状況

歴史まちづくり法第1条で定義される歴史的風致とは、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史的価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」である。

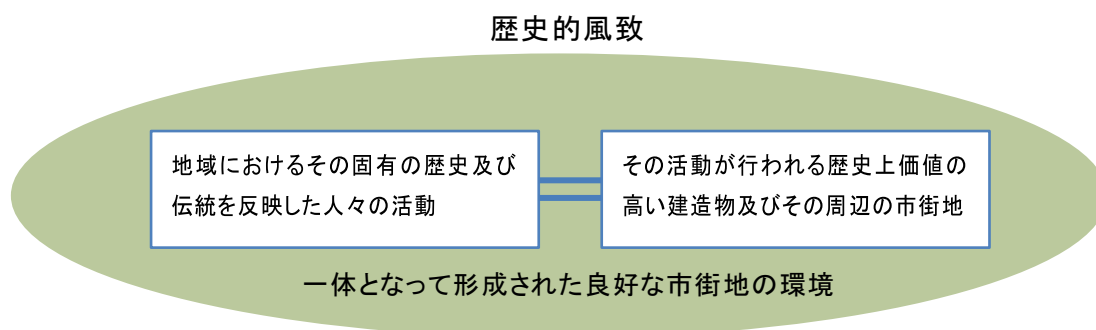


図 歴史的風致の概念図

本市では、熊本城を中心とした市街地や山、平地において、信仰、生業、文化とともに形成された風習、行事が広く分布し、歴史的価値の高い建造物等とともに、歴史的風致を形成している。

17世紀初めに加藤清正が整備した熊本城の城下町である新町・古町は、江戸時代の町割を残したまま、明治・大正時代に建造された歴史ある建造物が点在している。その町並みを背景に江戸時代から続く藤崎八幡宮の祭礼の行列が練り歩き、鐘や太鼓の祭りの音が響き渡るなど、熊本城下一帯が祭礼の雰囲気包まれ、良好な市街地環境を形成している。また、「一町一寺」という城下町特有の町割りが残る古町は、白梅天満宮の例大祭の大根を食す伝統行事が受け継がれるとともに、北岡神社から古町、二本木まで祭礼の行列が練り歩き、良好な市街地環境を形成している。

川尻地区は、かつて河港町として栄えた地域であり、史跡熊本藩川尻米蔵跡をはじめとして、江戸時代の町筋や土蔵造りの商家、町屋が群として残されている。その町並みを背景に河尻神宮秋季大祭や精霊流しなどの伝統行事が続けられており、良好な環境を形成している。

池上地区は、龍伝説とそれにまつわる池辺寺跡の遺跡や建物とともに、池辺寺の後身である追弔会やしめ縄づくりなどの風習が残っており、良好な環境を形成している。

松尾町は、海賊を火で追い払ったという伝承から、近津鹿島神社の「火ノ神祭り」や、平山神社の「火焚き神事」が平山神楽などとともに継承され、良好な環境を形成している。

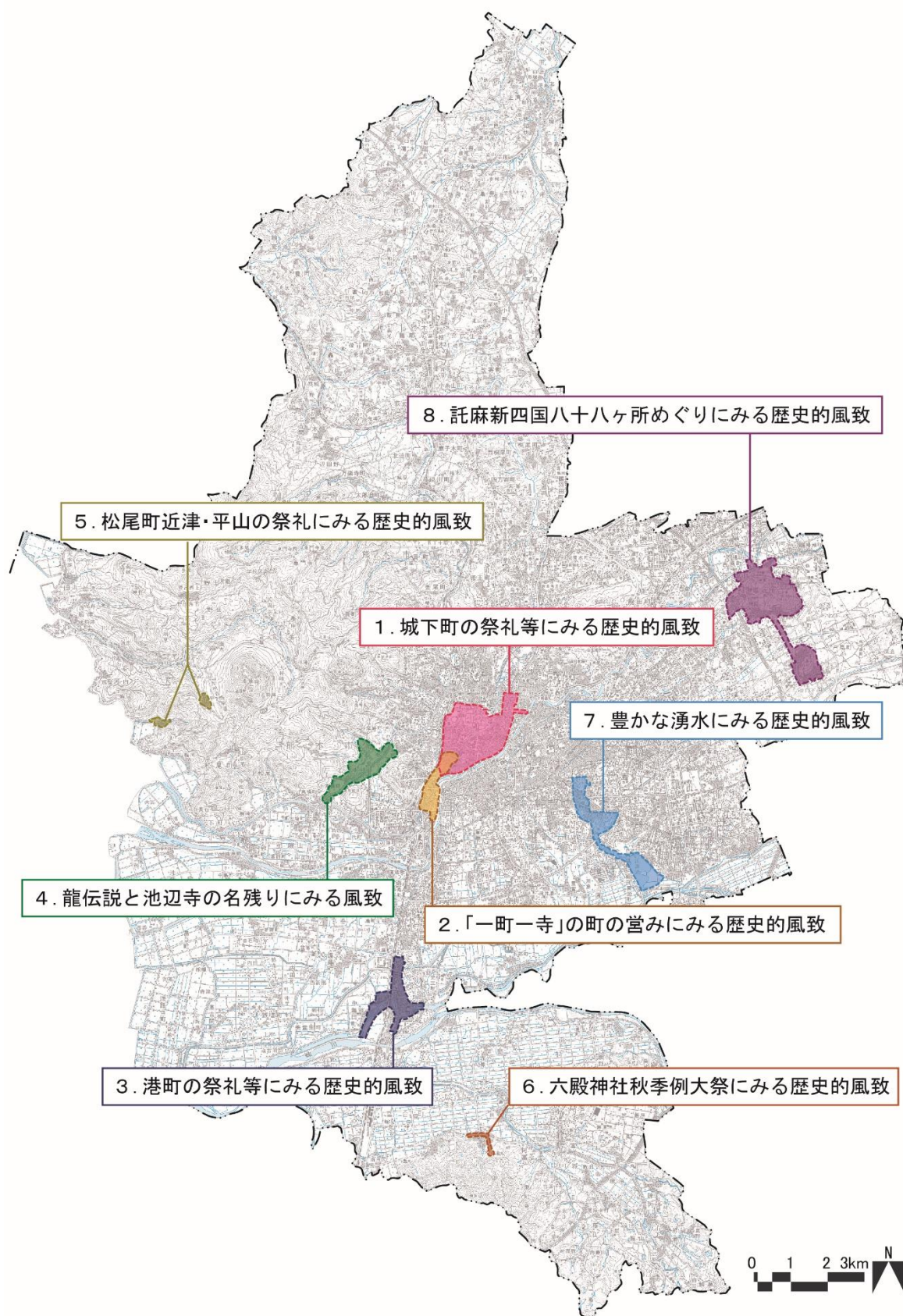
木原地区は、平安時代から加藤・細川期、現代を通して崇敬される六殿神社が中心となり、五穀豊穰を願う六殿神社秋季例大祭は、村廻りの行列をはじめとし、その形式は大きく改変されることなく受け継がれ、良好な環境を形成している。

水前寺・江津湖周辺は、豊富な湧水に恵まれた風光明媚な場所であり、江戸時代から武士や一般庶民の行楽地として親しまれ、湖畔には藩の御茶屋や藩主別邸が建てられた。現在も、出水神社能楽殿の薪能や、江津湖での舟遊び、水前寺もやしの栽培、水神信仰など、湧水の恵みに育まれた文化が受け継がれ、良好な環境を形成している。

託麻三山周辺を巡る託麻新四国八十八ヶ所めぐりは、地元住民が一丸となって開いた霊場であり、住民の手により活動が継承され、豊かな自然環境と社寺などの歴史的建造物とともに札所が残され、良好な環境を形成している。

以上のことから、本市が維持向上すべき歴史的風致は、次の8つに整理することとした。

- 1 城下町の祭礼等にみる歴史的風致
- 2 「一町一寺」の町の営みにみる歴史的風致
- 3 港町の祭礼等にみる歴史的風致
- 4 龍伝説と池辺寺の名残りにみる歴史的風致
- 5 松尾町近津・平山の祭礼にみる歴史的風致
- 6 六殿神社秋季例大祭にみる歴史的風致
- 7 豊かな湧水にみる歴史的風致
- 8 託麻新四国八十八ヶ所めぐりにみる歴史的風致



熊本市の歴史的風致